

John Mung

中濱万次郎

日本初の国際人



幕末、明治の世を導いた星 ジョン万次郎

受け継ぐべきジョン万スピリッツ

日本初の国際人といわれたジョン万次郎の語り継がれるスピリッツ。



萬次郎少年像

「万次郎少年像」は1991年、万次郎漂流150周年を記念して土佐清水市あしずり港(海の駅あしずり)に建立。

橋原町の「維新の門」、安芸市の「岩崎弥太郎像」、芸西村の「お籠・君枝像」を制作した濱田浩造氏の作品。

SPIRIT

万次郎。かしき(雑用係)14歳。10年後帰国。



其の一 常に前向き の精神

ジョン万次郎は、14歳の時自分の判断で漁師の見習いになり、初漁でそのまま遭難。漂着した無人島暮らしの後、救助してもらった捕鯨船の船長の提案を受け、仲間と別れアメリカに渡ることを決断します。そして、約3年間学校に通い、首席で卒業。その後、捕鯨船の船員になって、副船長としても活躍します。さらに時は流れ、アメリカ西海岸にゴールドラッシュが起こったことを聞くと、自らも金鉱掘りに参加、70日間で約600ドルを手に入れ、これを帰国資金にします。常に前向きであれ。前向きな精神は必ず幸運を呼び寄せる。それをジョン万次郎は、実証して、私たちに教えています。

其の二 決して諦めない

ジョン万次郎の人生は「決して諦めない」という事も教えてくれます。食料も少ない無人島生活を143日間生き抜いた生命力もさることながら、絶望的な状況にあっても最後まで諦めないという万次郎の精神力が無人島からの脱出を実現させます。それは、島の近くを通りかかった捕鯨船に気づいてもらえず、仲間の誰もが諦めた時、万次郎ひとりが諦めずに島を約3kmも走り、船に合図を送り続けました。また、咸臨丸の渡米では、大シケにみまわれ、船員の多くが氣力を失った時も、万次郎は「決して諦めない」心で困難に立ち向かい航海を成功させています。

其の三 次世代の育成

ジョン万次郎は、アメリカから帰国して、政治、文化、先進技術を日本に伝えました。また、その豊富な知識で、次の世代を担う多くの人材を育成しています。ジョン万次郎が教え、指導した人々は、明治維新後に政治や教育の分野で活躍しています。中浜塾では、大山巖(参謀総長、内大臣)、榎本武揚(農商務大臣、現・東京農業大学創設者)、中江兆民(初代衆議院議員、自由民権運動の理論的指導者)、細川潤次郎(教育者、貴族院副議長)、新島襄(同志社大学の事実上の創設者)、箕作麟祥(現・法政大学初代校長、法学者)、伊沢修二(東京師範学校校長)などを輩出。また、土佐藩の藩校では、岩崎弥太郎や後藤象二郎も万次郎の講義を受けていたと伝えられています。



右・筆之丞(伝蔵)、船頭38歳。
万次郎と共に帰国。
左・重助、漁労係25歳。
ハワイで客死。



寅右衛門、櫓係26歳。
ハワイに永住。

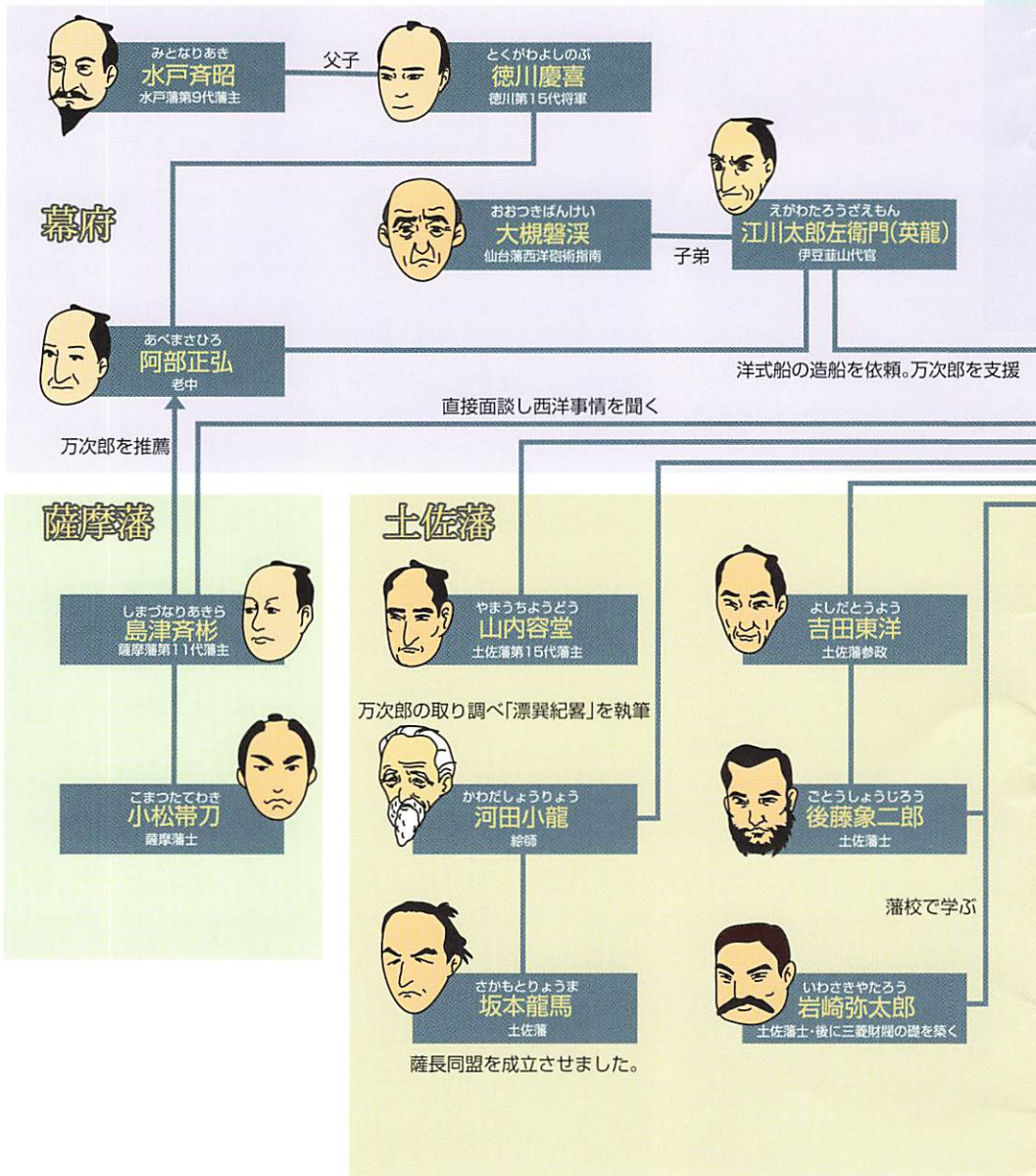


五右衛門、櫓係16歳。
万次郎と共に帰国。

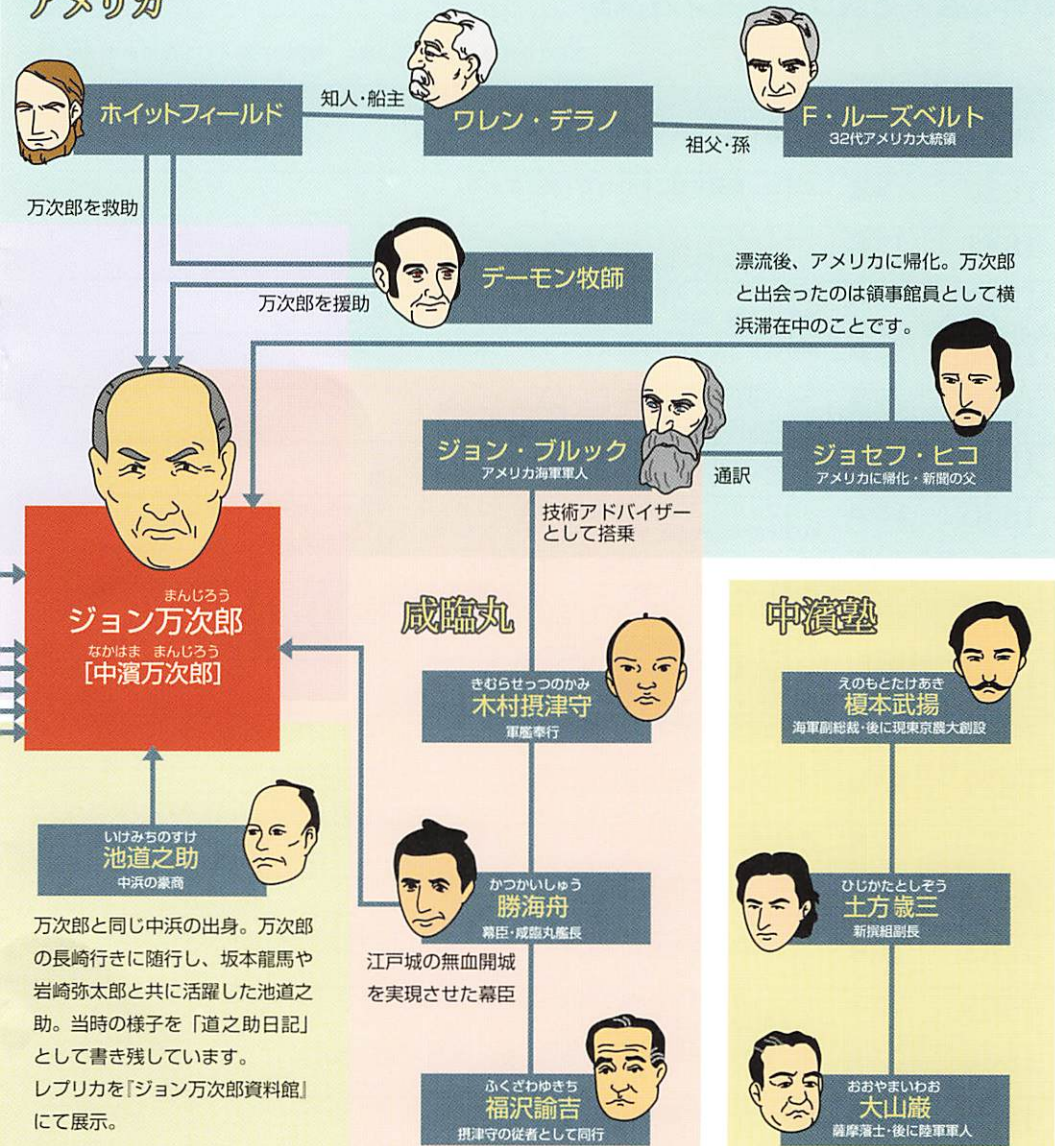
People correlation diagram

ジョン万次郎と、その時代の人々

ジョン万次郎の帰国の直後
ペリーの黒船が来航。
そして、時代が大きく動き始めた。



アメリカ



咸臨丸は日米修好条約の批准賞を届ける為に渡米。万次郎は、通訳として乗船しましたが、航海のサポーターとしても活躍しました。

中濱塾には、万次郎の講義を聞く為に様々な人物が集まりましたが、講義の内容が英語、航海術など、あまりにも多様だったため、ほとんどが個人授業だったと伝えられています。

数奇な運命を辿ったジョン万次郎

ジョン万次郎年表

日本初の国際人ジョン万次郎は、漁師の次男として産声をあげた。

西暦	年齢	出来事
1827	0歳	土佐の中ノ浜の貧しい漁師の次男として誕生。
1836	9歳	父死去。病弱な兄にかわって下働きに出る。 1835年坂本龍馬誕生
1841	14歳	宇佐浦から漁に出て漂流。鳥島で143日間の無人島生活の後、捕鯨船に救助される。ハワイで仲間(4名)と別れ、万次郎1人だけアメリカ本土に渡ることを決意。
1843	16歳	ホイットフィールド船長の故郷フェアヘブンへ。学校で英語、数学、測量、航海術、造船技術などを学ぶ。
1846	19歳	捕鯨船フランクリン号にスチュワード(給仕係)として乗船。
1848	21歳	フランクリン号の一等航海士(副船長)になる。ホノルルに寄港、デーモン牧師と出会う。
1849	22歳	ニューベトフォードに帰港。ゴールドラッシュの西海岸のカリフォルニアへ向かう。
1850	23歳	カリフォルニアにある金鉱で約600ドルを入手、ハワイへ向かう。ハワイで帰国準備を整え、仲間と共にハワイを出航。
1851	24歳	琉球(沖縄)に上陸。その後、薩摩(鹿児島)へ。島津斉淋による取り調べで、アメリカの政治、経済、文化を語り、洋式帆船の模型を制作。
1852	25歳	高知城下着、土佐の絵師・河田小龍が万次郎と会い「漂異紀畧」をまとめる。その後、中浜に帰郷して母と再会。3日後、土佐藩の藩校教授館に出仕。
1853	26歳	土佐藩に登用され武士になる。 1853年ペリー来航 通訳などのために幕府直参となり、中濱の性を名乗る。
1854	27歳	江川太郎左衛門の下で洋式船を造る。 1854年坂本龍馬、河田小龍と会う
1857	30歳	「ポーディッチ航海術書」の翻訳完成。 1855年安政の大地震
1859	32歳	英会話書「英米対話捷徑」を執筆。 1859年岩崎弥太郎長崎へ
1860	33歳	咸臨丸の通訳として乗船。 1860年桜田門外の変
1862	35歳	小笠原諸島の開拓調査へ咸臨丸で行く。 1862年土佐藩参政・吉田東洋暗殺
1863	36歳	小笠原諸島鳥島でホーツン事件(日本初の外交事件)。万次郎、外国人2名を逮捕。 1863年新撰組結成
1864	37歳	薩摩藩の開成所教授に就任。航海、造船、測量、英語を教える。
1865	38歳	長崎にて、薩摩藩の船を購入する。 1865年坂本龍馬、長崎にて亀山社中創立
1866	39歳	土佐藩の後藤象二郎、池道之助と共に上海で船を購入。 1867年坂本龍馬暗殺
1869	42歳	明治政府から開成学校(現・東京大学)の教授に任命される。 1868年明治元年
1870	43歳	普仏戦争視察団の一員としてヨーロッパへ。ニューヨーク滞在中、フェアヘブンへ足を運びホイットフィールド船長と再会。
1871	44歳	ロンドンから帰国後、軽い脳溢血で倒れる。ほどなく全快するが、その後は静かに暮らす。
1898	71歳	脳溢血で死去。



無人島 鳥島生活

ジョン万次郎達 5 人は鳥島という無人島に漂着しました。そこに待ち受けていたのは過酷なサバイバル生活。アホウドリの肉を海水で洗ったり、干し肉にして食べたり、荒地にわすかに生えたイタドリ（虎杖・多年生植物）などで飢えをしのいだそうです。飲み水はさらに状況が厳しく、手桶や貝殻に雨水を溜めて、かろうじて乾きをいやしたと伝えられています

幕府直参 中濱万次郎



1853 年 1 月、万次郎は土佐藩に登用され武士になり、同年 12 月には幕府直参になります。こうした異例の出世は、土佐藩や幕府が万次郎の知識や技術を高く評価していたからと伝えられています。

幕府直参となった万次郎は、出身地の中ノ浜にちなみ中濱苗字を名乗り、家紋は航海の目印となるオリオン座の三つの星をモチーフにしました。

咸臨丸 渡米

1860 年、日米修好通商条約の批准書交換をワシントンで行うため遣米使節団が米艦ポーハタンに乗船してアメリカへ向かいます。この時の随行艦が勝海舟艦長の咸臨丸。万次郎は、その咸臨丸に通訳として乗船します。

咸臨丸は、航海中に大シケに見舞われ、艦長の勝海舟も船酔いしてしましますが、万次郎とアメリカ海軍のジョン・ブルック大尉他 11 名の働きによって、無事に太平洋を横断、アメリカに上陸することができました。

万次郎と 3 冊の本

「漂流紀畧」は、万次郎が帰国後、土佐で取り調べを受けた際に語った話を、絵師の河田小龍が詳細な挿絵を交えて書き起こしたものです。アメリカの政治、経済、技術にも触れたこの本は、坂本龍馬など多くの人々に影響を与えたと伝えられています。

「英米対話捷徑」は、万次郎が書いた英会話のガイドブックです。英文に、カタカナの発音表記と訳文を付け、読み順番を示すために漢文のレ点をを使うなどの工夫がされています。咸臨丸渡米の際はもちろん、幕末の国内で重宝された一冊です。

「ボーディッチ航海術書」は、当時の遠洋航海者のバイブルといわれた航海技術書です。万次郎は幕府に命じられて、翻訳に着手しましたが、当時の日本には航海用語そのものが無かったため、専門用語から作らなければならず、完成までに 2 年もかかりました。

恩人との再会

1870 年、万次郎は普仏戦争視察団の一員としてヨーロッパへ向かいます。太平洋を横断し、開通したばかりの大陸横断鉄道に乗り、ニューヨークへ。万次郎は、ここで休暇を願い出て、恩人のホイットフィールド船長の家を 20 年ぶりに訪問します。そして、英訳した「漂流紀畧」を渡し、20 年の出来事を船長に語ったと伝えられています。

万次郎と池道之助

池道之助は、1821 年に万次郎と同じ中ノ浜に生まれました。豪商で、練達の武術と優れた学才を持つ人物でした。道之助が記したジョン万次郎の海外見聞録画集「池文書」や、土佐商會に勤務していた時にジョン万次郎と後藤象二郎の長崎行きに同行して書いた「池道之助日記」は、幕末の日本を知る上で貴重な資料となっています。

New culture in Japan reported

ジョン万 はじめて物語



ジョン万次郎が通ったと伝えられる
ユニテリアン教会



ジョン万次郎が過ごしたホイットフィールド
船長の家。現在は日米交流の拠点としての記
念館になっている。



メリセント図書館



ジョン万次郎が通ったオックスフォード
スクール（通称ストーンスクール）。

フェアヘブンはボストンから車で約1時間。マサチューセッツ州南部にある港町です。入江に架かる大きな橋、フィッシュアイランド橋を渡れば、かつて捕鯨で栄えたニューベトフォードの町です。

フェアヘブン観光の問い合わせ＝メリセント図書館

45 Center St. P.O.Box30 Fairhaven MA 02719 TEL: 508-992-5342

万次郎は、日本人として初めて近代捕鯨を学び、経験し、蒸気機関車に乗り、蒸気船に乗った。

ゴールドラッシュの西海岸で金を採掘し、ジーンズで歩いた。

日本人として初めてブーツを履き、ネクタイを締めた。

そして、たくさんの初めての文化を日本に伝えた。



バーレット校

170年前のアメリカ留学生だった

ジョン万次郎は、16歳でフェアヘブンのオックスフォードスクール(小学校)に通いはじめました。これが、日本初のアメリカ留学生誕生の瞬間です。さらに、17歳になるとバーレット・アカデミー(専門学校)に進学。ここで、航海術、測量術などを学びました。

ゴールドラッシュで帰国資金を稼いだ

ジョン万次郎は、1848年頃にはじまったカルフォルニアのゴールドラッシュで金を採った唯一の日本人とされています。ジョン万次郎は、ここで70日間働き、600ドルに相当する金を採掘しました。捕鯨船に3年間乗って約350ドルでしたから、その収入は大変なものでした。

福沢諭吉に「英語のすすめ」

1860年、ジョン万次郎は咸臨丸で再びサンフランシスコに上陸します。この時、同船していた福沢諭吉にウエブスター辞書を買うように勧め、万次郎自身も購入しています。

「天は人の上に人をつくらず…」という福沢諭吉の「学問のすすめ」の一節はアメリカの独立宣言の引用です。もしかすると、これも万次郎からの情報だったかもしれません。

ビジネスのシステムを伝えた

ジョン万次郎がビジネスのシステムを知ったのは、当時のアメリカに鉄道敷設事業や捕鯨事業などへの投機ブームがあったから。この情報は、坂本龍馬(亀山社中)、岩崎弥太郎(三菱)、小栗忠順(三井)などへ伝えられ開花しました。

民主主義の思想を伝えた

ジョン万次郎は、アメリカでの生活や捕鯨船で働く中で、大統領が選挙で選ばれることを知り、自由、平等、民主主義を体感しました。そして、その思想を幕末の日本に伝えました。

そうした思想は、坂本龍馬の新政府構想「船中八策」、明治維新後に高知を中心に興った自由民権運動にも影響を与えたかもしれません。



アメリカの婦人

幕末の日本にジョン万次郎が伝えた英語

John Mung English ジョン万エンケレセ

英米対話捷徑

日本で初めてネイティブの英会話ガイドブック「英米対話捷徑」を書いたジョン万次郎。「英米対話捷徑」とは、英語を話すのには一番早い方法という意味です。その「英米対話捷徑」の内容を少しだけご紹介します。

エイ シイン ヲフ スイ アベセ (ABCの歌)

A sing of the abc

エー	ビー	シー	リー	イー	エフ	チー	エイチ	アイ
<i>a</i>	<i>b</i>	<i>c</i>	<i>d</i>	<i>e</i>	<i>f</i>	<i>g</i>	<i>h</i>	<i>i</i>
ゼイ	ケー	エル	エン	メ	ノ	ピー	キウ	アー
<i>j</i>	<i>k</i>	<i>l</i>	<i>m</i>	<i>n</i>	<i>o</i>	<i>p</i>	<i>q</i>	<i>r</i>
エシ	チー	ユー	フヘー	タブリヨ	エキシ			
<i>s</i>	<i>t</i>	<i>u</i>	<i>v</i>	<i>w</i>	<i>x</i>			
アイ	キャンノーツタ	セイ	ザヤタ	エービーシー				

* y と z はない

I cannot say that a b c .

吾レ不能 言フニ 其 あべ せヲ

彼国童児ニ教ユルニ如此節ヲナシテ是ヲ復誦ナサシム

(私はABCが言えません。あちらの国では児童に教える時、節をつけて暗誦させている。)

レッタ イズ スパーカ エンケレセ (英語を話してみよう!)

Let us speak English!

モーネン (朝)

morning

ハータ (熱い)

hot

タウン (町)

town

ナイ (夜)

night

コール (寒い)

cold

フハマレ (家族)

family

ブック (本)

book

チリレン (子ども)

children

グーリ (良い)

good



少年万次郎は、キャサリンに淡い恋をした。
そして、一編の詩を残した。



バターカップ (キンポウゲ)

This in the chilly night.
A basket you've got hung.
Get up, strike a light!
See me run.
But no take chase me.

とても寒い朝

貴女のバスケットを吊るしたよ

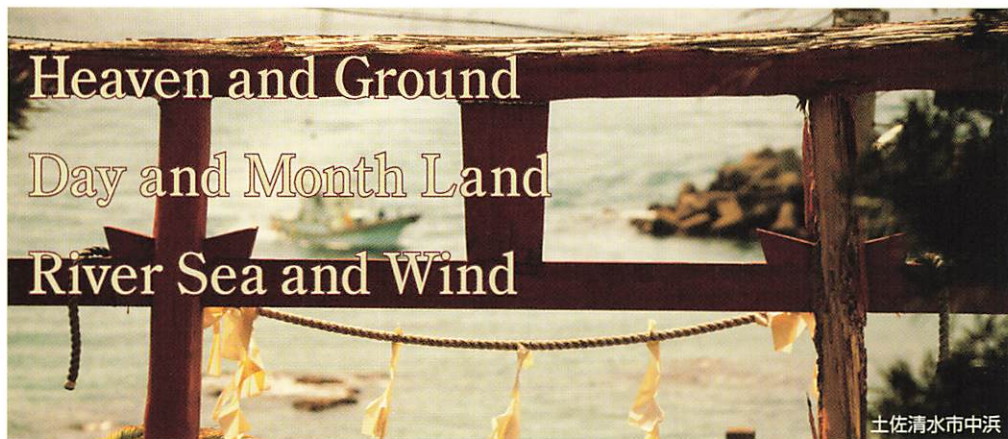
ねえ、起きて、明かりをつけてよ

走り去るボクを見てよ

だけど、追いかけてたりしないでね

当時、「五月祭(5月1日の春の祭り)」にバターカップの花とラブレターを籠に入れて好きな女性の家の前に吊るすという風習がありました。この詩は、万次郎の3代目の中濱清氏が渡米した際、高齢になったキャサリンから、万次郎の思い出と共に伝えられたものです。

1853年2月12日、
ジョン万次郎は帰郷途中に一篇の詩を書いた。



土佐清水市中浜

この詩を直訳すれば「天と地、日と月、陸、河、海そして風」。この詩を高知城下から帰郷の途中に書いたという状況に重ねて詠んでみると、ジョン万次郎がこの詩を書いた時の心情が浮かんできます。

まず、Heaven and GroundのHeavenがフェアヘブンとの掛詞と読めばGroundはふるさとを指す言葉。Day and monthは、Sun and moon。日本語にすれば、どちらも「日と月」。英語と和訳を意識した見事

な言葉遊びです。また、始まりをフェアヘブンとふるさとと解釈すれば、ここには歳月の意味も重なります。つまり、フェアヘブンからここまで10年の歳月を数えたということ。Landは、海の男が心を踊らせる陸であり、故国でしょう。そして、最後の「河、海そして風」は、ふるさとの風景に対する感嘆です。僅か3つの単語に、四万十川や太平洋、大自然の息吹が薫る土佐の風景が重なると、心が熱くなってきます。

